下唇に発現した脂肪腫の1症例

杉本 忠雄・田辺 昭博・横尾 秀陽・林 嘉仁
末森 一利・荒木 英隆・黒川 英雄・梶山 稔

Lipoma in the lower lip

—Report of a case—

Tadao SUGIMOTO・Akihiro TANABE・Hideharu YOKOO

Kajin RIN・Kazutosi SUEMORI・Hidetaka ARAKI

Hideo KUROKAWA・Minoru KAJIYAMA

Abstract: Lipoma, a benign neoplasm of adipose tissue, is a common tumor found almost anywhere on the body. In the oral cavity, lipoma commonly occurs in the cheek and the tongue. But rarely in the lower lip.

We have experienced one case of lipoma in the left lower lip of a 53-year-old woman.

The gross specimen consisted of a single piece of tissue measuring about 1.9×2.3×1.4 cm. The cut surface revealed a well circumscribed, bright yellow, fatty lesion. Histopathologic examination showed a sharply demarcated proliferation of adipose tissue with scant stroma.

The prognosis is fairly good after surgical treatment and there is no recurrence after 8 months.

Key words: lipoma, oral cavity, lower lip

緒 言

脂肪腫は、腫瘍実質が成熟した脂肪細胞からなる非上皮性の良性腫瘍で¹⁾、脂肪組織の存在するいずれの部位にも発生する疾患である²⁾。顎・口腔領域では、他の非歯源性腫瘍に比べて、その発現頻度は低く、頬粘膜、舌、口底部、歯肉、顎骨などに発生しているが³⁾、口唇での報告例は少ない⁴⁻¹¹⁾。

最近、わたくしたちは53歳、女性の下唇粘膜下に発現した脂肪腫の1症例を経験したので報告する。

症 例

患 者： 53歳 女性。

初 診：昭和62年1月 日。

主 訴：左側下唇部の腫瘤。

既往歴・家族歴：特記事項はない。

現病歴：約3年前より、左側下唇粘膜下に米粒大で、無痛性の腫瘤に気づいていたが、とくに自覚症状もないため、放置していた。昭和62年1月、18の歯疾治療のため、某歯科医院を受診したさい、下唇部の腫瘤を指摘され、精査のため紹介により当科を受診した。

現 症

全身所見：体格中等度、栄養状態良好で、全身的にも特別な異常所見は認められなかった。

口腔外所見：顔貌は左右対称で、左側顎下リンパ節、オトガイ下リンパ節などに異常と思われる所見は認められなかった。

口腔内所見：左側の下唇粘膜は、健康色を呈しているが、わずかに膨隆していた。同部の粘膜下には、小指頭大の半球状で、弾性軟の腫瘤を触れるが、周囲組織とは、癒着もなく、可動性であった(写真1)。なお、他の部位には、異常と思われる所見は認められなかった。

臨床検査成績：血液一般、血清生化学、尿一般検査、心電図などで、とくに異常と思われる所見は認められなかった。

九州歯科大学口腔外科学第2講座

(主任：梶山 稔教授)

The Second Department of Oral Surgery, Kyushu Dental College (Chief: Prof. Minoru Kajiyama)

受付日：昭和62年9月25日

写真 1 初診時の下唇（矢印は腫瘍を示す）

写真 3 腫瘍中央部の病理組織（H-E 染色，弱拡大）

腫瘍実質内には線維性結合組織が索状にみられ分葉状に区分されている。

写真 2 摘出腫瘍の全断面所見
被膜に覆われた充実性の腫瘍

写真 4 腫瘍の病理組織像（H-E 染色，強拡大）腫瘍実質は成熟した脂肪細胞の増殖からなっている。

臨床診断：下唇良性腫瘍の疑い。

処置ならびに経過：昭和62年1月■日に、腫瘍を被う左側下唇粘膜中央に紡錘状の切開を加え、周囲組織を剝離して腫瘍を全摘出した。術後の経過は良好で、8か月を経過した現在、再発を認めていない。

摘出物所見：

肉眼的所見：摘出した腫瘍の大きさは $1.9 \times 1.4 \times 2.3$ cm で、湿重量は 1.91 g であった。また、腫瘍は弾性軟で、表面は帯黄灰白色を呈する薄い被膜に覆われていた。腫瘍中央の全断面は充実性で、帯黄色、光沢を有する脂肪様組織であった（写真2）。

病理組織学的所見：腫瘍は薄い線維性結合組織の被膜でおおわれ、腫瘍実質は大小不同の成熟した脂肪細胞の増殖よりなっていた。また、腫瘍実質は、毛細血管をともなった線維性結合組織索によって、小ささまざまな大きさで、分葉状に区分されていた。なお、脂肪細胞には異型性はみられず、悪性を思わせる所見は認められなかった（写真3, 4）。

ズダン・ブラックB染色では、脂肪細胞の細胞質内に、暗紫色を呈する脂肪滴が認められた。

走査電顕所見：腫瘍組織は、結合組織線維により分葉状

写真 5 腫瘍の走査電顕像（弱拡大）
脂肪細胞は充実性で、蜂巣構造を呈している。

に区分され、実質は、細胞質と形質膜の鞘により蜂巣構造を呈している。脂肪細胞は、 $40 \sim 60 \mu\text{m}$ の大きさからなり、細胞間隙には、微細な膠原線維が網目状に走向し、各脂肪細胞を連結させている（写真5, 6）。

写真 6 腫瘍細胞の走査電顕像 (強拡大)

細胞間隙には微細な数本の膠原線維が網目状に走行している。

病理組織学的診断：脂肪腫。

考 察

脂肪腫は腫瘍の実質細胞が、成熟した脂肪細胞からなる非上皮性の良性腫瘍で¹⁾、脂肪組織の存在する部位では、どこにでも発生する可能性がある²⁾ MacGregor ら (1966)¹²⁾によれば、全身における脂肪腫の発現頻度は良性腫瘍の4～5%と報告されているが、本邦では、遠城寺ら(1974)¹³⁾が良性軟部組織腫瘍8,086例のうち19.8%、Fukuoka ら (1979)¹⁴⁾が17.5%であったと報告し、欧米に比較して本邦ではその頻度がかなり高くなっていた。

一方、口腔領域に発現する良性腫瘍のうち脂肪腫の頻度は、Bertelli(1965)¹⁵⁾が633例中6例(0.95%)、Wehrle ら (1965)¹⁶⁾は180例中4例(2.2%)と報告し、最近では、Rapidis (1982)¹⁷⁾が口腔内良性腫瘍の約2%を占めると報告している。本邦における口腔内良性腫瘍に対する脂肪腫の発現頻度をみると、久野ら (1978)¹⁸⁾は204例中5例(2.5%)、千葉ら (1982)¹⁹⁾は585例中13例(2.2%)、柴田ら (1986)²⁰⁾も115例中2例(1.7%)と報告し、おおむね2%前後となっている。しかしながら、最近では、伊地知ら (1982)²¹⁾45例中2例(4.4%)、吉嶺ら(1985)²²⁾57例中3例(7.7%)、森ら(1985)²³⁾249例中13例(5.2%)の報告のように発現頻度がいくぶん高くなっており、石川 (1982)³⁾の記載にみられるように、顎・口腔領域における脂肪腫の発現はさほどまれとはいえないようである。ちなみに当科において、1977年から1986年までの過去10か年間で、唾液腺腫瘍およびエプーリスを除き病理組織学的に良性腫瘍と診断されたものは120例でそのうち脂肪腫はわずか3例で、その比率は2.5%で、おおむね諸家の報告に類似する頻度であった。

口腔領域における脂肪腫の発現部位については、MacGregor ら (1966)¹²⁾は脂肪腫57例を集計し、頬部が最も多く24例(42.1%)、ついで舌・11例(19.3%)、口底

表 1 本邦において顎・口腔領域から報告された脂肪腫の部位別発現頻度

(1935～1987.6, 220例)

発現部位	症例数 (%)
頬部 { 頬粘膜 頬部 外頬部	46 20 4 } 70 (31.8)
舌	43 (19.6)
口底部	24 (10.9)
顎下部	16 (7.3)
歯肉頬移行部	13 (5.9)
口唇	13 (5.9)
歯肉	12 (5.4)
口蓋	12 (5.4)
オトガイ部	5 (2.3)
オトガイ下部	5 (2.3)
耳下腺咬筋部	5 (2.3)
頸部	5 (2.3)
咽・喉頭	2 (0.9)
計	220 (100)

部・8例(14.0%)の順となり下唇は6例(10.5%)であったと報告している。また、Hatziotis (1971)²⁴⁾も脂肪腫145例を集計し、頬粘膜が最も多く、舌、口底部の順で、口唇はわずか9例(6.2%)であったと報告している。本邦では、村上ら (1985)²⁵⁾が14例のうち頬粘膜部が6例(42.9%)と多く、口唇は1例(7.1%)であったと報告し、刀根ら (1985)⁹⁾は、本邦で口腔領域に発現した脂肪腫報告例157例を集計、調査したところ、頬粘膜が58例(37.0%)と最も多く、舌・27例(17.0%)、口底部・16例(10.0%)、口唇・6例(3.8%)であったと報告している。また、鈴木ら (1987)¹¹⁾は33例を集計し、頬部が11例(33.3%)で舌・5例(15.2%)、口唇・5例(15.2%)であったと報告している。

以上のような諸家の報告成績からすれば、口腔領域における脂肪腫は頬粘膜や舌に多発し、口唇での発現例は比較的少ないといえる。ちなみに著者らも1935年から1987年6月までの過去53年間に、本邦において、顎・口腔領域から報告された脂肪腫220例^{4-11, 15-23, 25-132)}を集計し、調査を行った。その結果は表1に示すように、頬部が70例(31.8%)と最も多く、ついで舌・43例(19.6%)、口底部・24例(10.9%)、顎下部・16例(7.3%)、歯肉頬移行部・13例(5.9%)、口唇・13例(5.9%)、歯肉・12例(5.4%)、口蓋・12例(5.4%)、オトガイ部およびオトガイ下部・5例(2.3%)、耳下腺咬筋部・5例(2.3%)、頸部・5例(2.3%)、咽頭および喉頭・2例(0.9%)の順であった。したがって、頬・口腔領域における脂肪腫は、その約半数が頬部、舌に発現しており、

表 2 口唇に発現した脂肪腫の本邦報告例について (1935~1987.6, 13例)

報告年代	年齢	性別	発現部位	大きさ (cm)	手術法	経過
横井ら (1935)	68	女	下唇	核桃大	全摘出	良好
庄内ら (1973)	45	女	下唇	示指頭大	全摘出	良好
倉地ら (1980)	54	女	下唇	2.2×2.0×1.8	全摘出	良好
野村ら (1980)	65	男	下唇	不明	全摘出	良好
中村ら (1982)	64	女	上唇	4.4×3.5×3.3	全摘出	良好
刀根ら (1985)	44	女	下唇	2.2×1.7×1.2	全摘出	良好
野口ら (1987)	26	男	下唇	2.0×1.5×1.0	全摘出	良好
	65	男	下唇	0.7×0.7×0.4	全摘出	良好
鈴木ら (1987)	45	男	下唇	1.5×1.5	全摘出	良好
	52	女	下唇	0.6×0.6	全摘出	良好
	54	男	下唇	1.5×2.0	全摘出	良好
	61	男	下唇	2.0×2.0	全摘出	良好
	71	女	下唇	2.0×1.0	全摘出	良好
自験例 (1987)	53	女	下唇	1.9×2.3×1.4	全摘出	良好

口唇での発現は13例 (5.9%) と比較的低い頻度であった。一方、口唇での発現例を部位で調査してみると、上唇がわずか1例で、他の12例はすべて下唇であり、口唇ではそのほとんどが下唇に発現するといえる。また、発現側をみると左側・5例、右側・5例でその差はなく、他の3例は不明であった (表2)。

発現年齢をみると、MacGregor ら (1966)¹²⁾ は40歳以上で77.2%の多発を、Hatziotis (1971)³⁴⁾ も80.6%が40歳以上での発現を報告し、いずれも40歳以上の多発で一致している。また、Rapidis (1982)¹⁷⁾ は、10歳から82歳までの幅広い年齢層に発現していたが、50歳代で最も多く平均年齢は55.5歳であったと記載している。本邦では、157例を集計した刀根ら (1985)⁹⁾ の報告によれば、60歳代・24%、50歳代・20%、30歳代・15%、40歳代・13%で50~60歳代が多くなっている。また、鈴木ら (1987)¹¹⁾ は、40歳代、50歳代、60歳代の順に多く発現し、平均年齢も50.7歳であったと報告している。

なお、著者らが集計した220例では、生後40日から90歳にいたるまでのきわめて幅広い年齢層に発現していたが、表3に示すように、40歳代・13.6%、50歳代・20.9%、60歳代・23.2%、70歳代・11.8%、40歳代以上に69.5%と多発し、平均年齢は48.6歳で、諸家の報告に類似する年齢層および平均年齢となり、顎・口腔領域における脂肪腫の発現はその多くが40歳代以上といえる。一方、口唇における脂肪腫の発現例13例を調査してみると、13例中12例 (92.3%) が40歳以上に発現し、平均年齢は54.9歳となり、他部位での脂肪腫発現年齢に比較して著差は認められなかった (表2, 3)。

性別については、男性に多いとするもの^{11, 34)}、女性に多いとするもの^{9, 133, 134)}、あるいは性差をみないとする

表 3 本邦において顎・口腔領域から報告された脂肪腫の年齢別発現頻度

(1935~1987.6, 220例)

性別	男性	女性	計 (%)
発現年齢			
0~9歳	11	9	20 (9.1)
10~19	0	4	4 (1.8)
20~29	3	7	10 (4.6)
30~39	17	13	30 (13.6)
40~49	20	10	30 (13.6)
50~59	22	24	46 (20.9)
60~69	28	23	51 (23.2)
70~79	15	11	26 (11.8)
80歳以上	2	1	3 (1.4)
計 (%)	118 (53.6)	102 (46.4)	220 (100)

ものなど^{48, 61)}の報告がみられ、特定の傾向は認められなかった。なお、著者らが集計した220例では、男性・118例 (53.6%)、女性・102例 (46.4%) となり、やや男性に多くなっていた。しかしながら、口唇13例については、男性・6例、女性・7例となり性差は認められなかった。ちなみに自験例は、53歳、女性であった。

つぎに、脂肪腫の大きさをみると、一般的には小さいとされているが、なかには拇指頭大から手拳大にいたるものや⁸⁴⁾、重量も数gから数10g⁸⁷⁾におよぶものまでみられる。著者らが集計した220例のうち、大きさが明示されたものは144例で、表4に示すように、2.0~3.0cm未満のものが27.1%と最も多く、ついで3.0~4.0cm未満・16.7%、1.0~2.0cm未満・13.9%の順で2~3

表4 本邦において顎・口腔領域から報告された脂肪腫の大きさについて
(1935~1987.6, 144例)

大 き さ	症例数 (%)
0.5 cm 未満	1 (0.7)
0.5 cm 以上~1.0 cm 未満	13 (9.0)
1.0 cm 以上~2.0 cm 未満	20 (13.9)
2.0 cm 以上~3.0 cm 未満	39 (27.1)
3.0 cm 以上~4.0 cm 未満	24 (16.7)
4.0 cm 以上~5.0 cm 未満	16 (11.1)
5.0 cm 以上	31 (21.5)
計	144 (100)

cm 程度のものが多かった。また、口唇13例については、0.4 cm から 4.4 cm くらいで、2 cm 前後で球状のものが多かった。なお、自験例では大きさが約 1.9×2.3×1.4 cm で、球状であった(表2, 4)。

脂肪腫の病理組織像については、本腫瘍が成熟した脂肪細胞の増殖よりなり、結合組織索により分葉状を呈することが多く、薄い線維性の被膜によって包被されることから正常な脂肪組織とは区別されている⁹⁾。本腫瘍は、基質ならびに腫瘍細胞の性状により、単純性脂肪腫、線維組織の増殖をとともなう線維脂肪腫、多数の毛細血管が認められる血管脂肪腫、腫瘍組織内に化骨が認められる化骨性脂肪腫、粘液腫様変化を呈する粘液脂肪腫などに分類されている⁹⁾。口唇に発現した脂肪腫では、Allard (1982)¹³⁵⁾ が軟骨化生を呈した1例を報告しているが、本邦ではこの種の報告例はなく、いずれも単純性脂肪腫として報告されているもので、自験例でも同様に単純性脂肪腫であった。

本腫瘍の発生機序については、これまで諸家により論究されてきたが、一般的には組織異所発生説¹³⁶⁾、正常組織の過形成説¹³⁶⁾などが報告されている。また、その成因としては外傷¹³⁵⁾、慢性の刺激^{96, 111)}、内分泌異常¹³⁷⁾、放射線¹³⁸⁾、脂肪代謝障害¹³⁹⁾などがあげられているが、いまだ明らかにされていないようである。しかしながら、Simpson (1959)¹⁴⁰⁾ は口腔内での脂肪腫6例のうち4例は発生原因が外傷に起因すると報告している。また、口唇発現例のうち、下唇は上唇に比べ歯による慢性刺激を受けることが多く、口唇における脂肪腫のほとんどが下唇に発現していることから、慢性の機械的刺激が発生機序に関与していることも示唆されている^{9, 10)}。なお、自験例では下唇での外傷の既往もなく、発生原因を明らかにしえなかった。

本腫瘍の治療法は、外科的に腫瘍を全摘出すれば十分とされているが、なかには Choukas (1967)¹⁴¹⁾、Horton (1968)¹⁴²⁾ らのように再発例の報告もみられ、手術に際し

ては完全なる摘出が望まれる。自験例でも全摘出を行い、術後8か月を経過しているが、再発傾向を全く認めていない。

結 語

53歳、女性の左側下唇粘膜下に発現した脂肪腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて、その概要を報告した。

本論文の要旨は第51回日本口腔外科学会九州地方分会(昭和62年9月5日、北九州市)において発表した。

引 用 文 献

- 1) 赤崎兼義：病理学総論。第11版，南山堂，東京，1973，326-327頁。
- 2) Thoma, K.H.: Oral Surgery, Volume two 4th Ed, Mosby Co, St Louis, 1963, p 934-936.
- 3) 石川梧朗：口腔病理学Ⅱ。永末書店，京都，1982，570-572頁。
- 4) 横井 稔：口唇脂肪腫ノ一例。大日耳鼻 41: 1554-1556 1935.
- 5) 庄内晃二，内山敏子，他：下口唇粘膜部に発生した脂肪腫の一例について(抄)。口科誌 22: 249 1973.
- 6) 倉地洋一，木村 享，他：下口唇に発生した脂肪腫の1例。日口外誌 26: 209-214 1980.
- 7) 野村 篤，佐藤敏明，他：下口唇に発生した脂肪腫の1症例について(抄)。日口外誌 26: 523 1980.
- 8) 中村 繁，堂原義美，他：上唇部に発生した巨大な脂肪腫の1例。口科誌 31: 438-444 1982.
- 9) 刀根 功，松田耕策，他：下唇に発生した脂肪腫の1例。日口外誌 31: 2816-2820 1985.
- 10) 野口 誠，曾田忠雄，他：下唇に生じた脂肪腫の2例。医療 41: 527-530 1987.
- 11) 鈴木三郎，埴入重彰，他：頸部に発生した脂肪腫の1例と臨床統計的観察。日口外誌 33: 1252-1257 1987.
- 12) MacGregor, A.J. and Dyson, D.P.: Oral lipoma. A review of the literature and report of twelve new cases. Oral Surg 21: 770-777 1966.
- 13) 遠城寺宗知，岩崎 宏，他：わが国における良性軟部組織腫瘍—8086例の統計的観察—。癌臨 20: 594-609 1974.
- 14) Fukuoka, Y., Kawahara, Y., et al.: Clinicopathological study of soft tissue tumors. J Jpn Orthop Assoc 53: 85-104 1979.
- 15) Bertelli, A.P.: Uncommon tumors of the tongue (lipoma and leiomyofibroma). Report of two cases. Oral Surg 19: 771-775 1965.

- 16) Wehrle, D.P., Emmings, F.G., et al.: Lipoma of the oral cavity. Report of four cases. *Oral Surg* 20: 138-140 1965.
- 17) Rapidis, A.D.: Lipoma of the oral cavity. *Int J Oral Surg* 11: 30-35 1982.
- 18) 久野吉雄, 佐藤田鶴子, 他: 頬粘膜に発生した脂肪腫の1症例について. *歯学* 67: 388-392 1978.
- 19) 千葉博茂, 葛井 正, 他: オトガイ下部に発生した脂肪腫の1症例. *口科誌* 31: 102-107 1982.
- 20) 柴田隆夫, 水野明夫, 他: 口腔外科領域の軟組織良性腫瘍の臨床統計的検討. *口科誌* 35: 164-170 1986.
- 21) 伊知地 明, 山岡 稔, 他: 口腔内に発生した脂肪腫の2症例. *松本歯学* 8: 114-120 1982.
- 22) 吉嶺真一郎, 大枝直樹, 他: 脂肪腫の4例. *口科誌* 34: 202-206 1985.
- 23) 森 悦秀, 加納康行, 他: 口腔底に発生した脂肪腫の1症例と文献的考察. *日口外誌* 31: 585-590 1985.
- 24) Hatziotis, J. Ch.: Lipoma of the oral cavity. *Oral Surg* 31: 511-524 1971.
- 25) 村上有二, 西方 聡, 他: 脂肪腫14症例についての臨床的, 病理組織学的検討 (抄). *口科誌* 34: 874-875 1985.
- 26) 高崎琢男, 浅原走馬: 口腔ノ後半部ヲ充タセル巨大ナル脂肪腫ノ一例. *耳鼻喉* 10: 436-438 1937.
- 27) 元山 徹: 對側性頬粘膜下脂肪腫の一例. *耳鼻臨床* 15: 509-511 1941.
- 28) 小畑芳美: 歯肉粘膜下に発生した脂肪腫の1例について. *歯学雑誌* 5: 95-97 1948.
- 29) 野津邦雄: 多発性瀰漫性脂肪腫の1例. *通信医学* 5: 453-456 1953.
- 30) 田島時博, 竹之内秀男: 口腔内脂肪腫の症例に就て. *口科誌* 4: 376-378 1955.
- 31) 小淵貞夫: 口腔底に発生した稀有なる脂肪腫の一例. *長崎医学会誌* 31: 125-127 1956.
- 32) 飯尾孝子: 喉頭に発生した非定型的脂肪腫の1例. *耳鼻臨床* 50: 869-871 1957.
- 33) 市川辰己: 口底脂肪腫の一例について (抄). *口外誌* 6: 534-535 1960.
- 34) 田中 順: 頬粘膜に生じた線維性脂肪腫の1例. *口病誌* 28: 251-257 1961.
- 35) 林 四郎, 野中信子: 口腔底脂肪腫の1例 (抄). *日耳鼻* 65: 245 1962.
- 36) 大井一正, 千葉英輔: 口腔底に発現した巨大な Lipoma の1例 (抄). *口外誌* 8: 220 1962.
- 37) 加藤純彦, 田村直民, 他: 口蓋脂肪腫の一例. *耳鼻臨床* 56: 375-377 1963.
- 38) 北条 仁, 篠木満洲子, 他: 咽頭脂肪腫の1症例 (抄). *日耳鼻* 66: 377 1963.
- 39) 岡本 治, 今井 悟, 他: 臨床診断において皮様嚢胞と誤診した脂肪腫の1例. *歯科学報* 63: 749-750 1963.
- 40) 寺井 修, 沖田和己: 顎下腺と一体をなせる脂肪腫の1例 (抄). *日耳鼻* 66: 869 1963.
- 41) 小川克二: 舌脂肪腫1症例 (抄). *日耳鼻* 66: 1580 1963.
- 42) 間仁田恭一, 帖佐勝造: 口腔の線維性脂肪腫について. *口外誌* 10: 231-233 1964.
- 43) 宇都宮和喜: 巨大なる脂肪腫の1例 (抄). *日赤医学* 16: 246 1964.
- 44) 細川雅敏: 口蓋脂肪腫の1症例 (抄). *日耳鼻* 67: 1041 1964.
- 45) 高橋忠彦: 舌脂肪腫の2例 (抄). *日耳鼻* 68: 1063 1965.
- 46) 武内博文, 松井七郎: 一見嚢腫を思わせた頬部粘膜下脂肪腫の1例 (抄). *日耳鼻* 68: 1044 1965.
- 47) 野井倉武意: 舌に生じた脂肪腫の一例. *日歯評論* 287: 97 1966.
- 48) 梶山 稔, 古賀久保, 他: 脂肪腫の2例. *九州歯会誌* 21: 34-41 1967.
- 49) 山田孝良, 立松憲親, 他: 脂肪腫の2例について. *日口外誌* 13: 348-351 1967.
- 50) 朱雀直道, 亀山忠光, 他: 頬粘膜下に発生した脂肪腫の2症例. *口科誌* 16: 499-504 1967.
- 51) 荻原 力, 川崎健治, 他: 舌下部及び顎下部にみた脂肪腫と皮様嚢胞. *日口外誌* 14: 145-148 1968.
- 52) 滝川富雄, 比嘉定雄, 他: 口腔外科領域に生ずる脂肪腫について. *日大歯学* 43: 472-482 1969.
- 53) 河村正昭, 南波宏行, 他: 左下顎臼歯部頬側歯槽粘膜に発生した脂肪腫の1例 (抄). *口科誌* 18: 849 1969.
- 54) 本間隆義, 二瓶守男, 他: 頬粘膜部に発生した線維性脂肪腫の1例 (抄). *口科誌* 18: 849 1969.
- 55) 宮竹 昭, 末広 実, 他: 幼児口腔底脂肪腫の1例 (抄). *日耳鼻* 72: 2016 1969.
- 56) 中村保夫, 荻野益男, 他: 口腔底にみられた脂肪腫の1例 (抄). *日口外誌* 16: 245 1970.
- 57) 柴田重雄, 出口敏雄, 他: 口底部 Fibrolipoma の1例. *口科誌* 19: 737-740 1970.
- 58) Yoshimura, Y., Miyagi, K., et al.: Lipoma in the infant and child: report of cases. *J Oral Surg* 30: 690-693 1972.
- 59) 中室嘉康, 高島 洋, 他: 左側頬粘膜下に発生した単純性脂肪腫の1例. *歯科医学* 36: 674-677 1973.
- 60) 武田一雄, 安藤千里: 耳下腺腫瘍をうたがわせた巨大な頬部 Myxoma-Lipoma の1例. *耳鼻臨床* 66: 535-538 1973.
- 61) 久野吉雄, 内山敏子, 他: 歯肉に発生した脂肪腫の1例. *日口外誌* 19: 651-654 1973.
- 62) 田中広一, 菊地 康, 他: 巨大な口腔脂肪腫の1例 (抄). *口科誌* 22: 677 1973.
- 63) 大屋高德, 藤岡幸雄, 他: 頬粘膜部に発生した脂肪腫の1症例 (抄). *日口外誌* 19: 720-721 1973.
- 64) 豊嶋昭治, 豊嶋健治, 他: 口腔底に発現した巨

- 大な脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 20: 772 1974.
- 65) 亀山嘉光, 豊嶋健治, 他: 舌下部に発現した巨大な脂肪腫の一例. 九州歯会誌 29: 390-392 1975.
- 66) 岡野吉博, 馬場昭夫, 他: 舌脂肪腫の1例(抄). 日耳鼻 78: 272 1975.
- 67) 飯田 武, 赤根賢治, 他: 口腔底に発生した巨大な脂肪腫の一例. 臨床歯科 282: 32-35 1976.
- 68) 関田俊介, 丸谷雅晴, 他: 脂肪腫の2例. 鶴見歯学 2: 69-74 1976.
- 69) 佐藤正一郎, 松崎忠正, 他: 下顎オトガイ部(正中部)に発生した脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 22: 967 1976.
- 70) 小沢孝雄, 横尾 剛, 他: 左側頬粘膜部に発生した脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 22: 967 1976.
- 71) 児玉 実, 杉田尚史: 軟口蓋に発生しためづらしい脂肪腫の1例. 耳展 19: 461-462 1976.
- 72) 飯塚芳夫, 藤 秀敏, 他: 口腔領域にみられた脂肪腫. みちのく歯学誌 8: 25-26 1977.
- 73) 小泉明久, 松井 茂, 他: 同一口腔内に見られた Lipoma と Solitary bone cyst の1例(抄). 日口外誌 23: 342 1977.
- 74) 高野伸夫, 松井 隆, 他: 頬部脂肪腫の2例. 日口外誌 23: 569-573 1977.
- 75) 奥田耕三, 井上政吉, 他: オトガイ部脂肪腫の1例. 口科誌 26: 590-591 1977.
- 76) 木田亮紀, 末野康平, 他: 耳下腺 Angiolipoma の1例. 耳喉 49: 591-595 1977.
- 77) 橋本賢二, 武田義豊, 他: 口腔底脂肪腫の1例. 日口外誌 23: 837-841 1977.
- 78) 森鼻健史, 安積幹雄, 他: 両側舌縁部にみられた Llipomatosis (抄). 日口外誌 23: 990-991 1977.
- 79) 真喜屋垣代, 山城正宏, 他: 頬部に生じた脂肪腫の2例. 口科誌 27: 97-102 1978.
- 80) 藤好ふみ子, 緒方孝則, 他: 舌に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 24: 575-578 1978.
- 81) 後藤 潤, 山田善雄, 他: 舌にみられ骨・軟骨を有する脂肪腫の1例(抄). 口科誌 27: 454 1978.
- 82) 佐藤正一郎, 松崎忠正, 他: 口蓋に発生した fibrolipoma の1例(抄). 日口外誌 24: 1339-1340 1978.
- 83) 岡野昌治, 成瀬 健, 他: 若年者の頬部に見られた粘液脂肪腫の1例. 日口外誌 25: 649-652 1979.
- 84) 内田 稔, 河合 保, 他: 左側頬粘膜部に発生した脂肪腫の1症例. 日口外誌 25: 714-718 1979.
- 85) 川原秀樹, 竹中将純, 他: 幼児の頬部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 25: 886-889 1979.
- 86) 郡家常雄, 伊藤輝夫, 他: 顎下部にみられた脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 25: 956 1979.
- 87) 三科正見, 小屋一成, 他: 幼児の頬粘膜に発生した脂肪腫の1例. みちのく歯学誌 10: 34-35 1979.
- 88) 高井克憲, 各務和宏, 他: 舌に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 153-156 1980.
- 89) 田中大順, 山本悦秀, 他: 口腔領域に発生した脂肪腫8例の臨床的観察. 日口外誌 26: 1068-1073 1980.
- 90) 八重垣 健, 亀山忠光, 他: 舌にみられた脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 1563-1567 1980.
- 91) 向井則介, 大平弘司, 他: 頬粘膜に発生した大きな脂肪腫の1例(抄). 歯学 68: 318 1980.
- 92) 佐々木治夫: 口腔底脂肪腫の1例. 耳鼻 26: 354-356 1980.
- 93) 西野治邦, 水谷英守, 他: 頬部に発生した脂肪腫の1例. 新潟歯会誌 11: 31-36 1981.
- 94) 升井一朗, 金原哲雄, 他: 舌脂肪腫の1例. 福歯大誌 8: 84-91 1981.
- 95) 幸田 衛: lipoma of tongue (抄). 日皮会誌 91: 184 1981.
- 96) 梶山 稔, 銅城将敏, 他: 乳児の舌に多発した線維性脂肪腫の1例. 口科誌 30: 313-317 1981.
- 97) 土橋陸海, 平賀三嗣, 他: 顎下部に発生した脂肪腫の一例(抄). 口科誌 30: 357-358 1981.
- 98) 鶴野一洋, 堂原義美, 他: 軟口蓋鼻咽腔部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 27: 1052-1055 1981.
- 99) 南 吉昇, 南 吉文, 他: 舌脂肪腫の一例. 耳展 24: 165-168 1981.
- 100) 皆川 享, 東江良昭, 他: 顎下部に発生した脂肪腫の1症例(抄). 口科誌 30: 581 1981.
- 101) 伊藤信明, 岡村 悟, 他: 乳児の頬部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 28: 739-744 1982.
- 102) 沢木孝明, 川口辰彦, 他: 口腔底に発生した線維脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 28: 1375 1982.
- 103) 永見輝生, 領家和男, 他: 舌に見られた多発性脂肪腫の一例(抄). 口科誌 31: 333 1982.
- 104) 松永仁毅, 西村忠郎, 他: 舌脂肪腫の一症例. 耳鼻臨床 75: 1389-1393 1982.
- 105) 中村 一, 高木 明, 他: 耳下腺脂肪腫の2例. 耳鼻臨床 75: 1653-1656 1982.
- 106) 高門 渡, 朝波惣一郎, 他: 頬部に発生した脂肪腫の1症例(抄). 日口外誌 28: 2145 1982.
- 107) 老沼真一, 松本憲事, 他: 歯肉に発生した脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 28: 2145 1982.
- 108) 金田式世, 岩見弘司, 他: 脂肪腫の2例と文献的考察. 日口外誌 29: 1584-1590 1983.
- 109) 梶山 稔, 重住十成, 他: 頬粘膜に発現した脂肪腫の1例. 九州歯会誌 38: 485-491 1984.
- 110) 石橋利文, 染谷さき子, 他: 下顎歯肉頬移行部に発生した線維脂肪腫の1例. 日口外誌 30: 420-423 1984.
- 111) 馬場潤一郎, 佐藤寿宏, 他: 歯肉頬移行部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 30: 494-497

- 1984.
- 112) 久保倉弘幸, 長田道哉, 他: 顎下部脂肪腫の2例. 日口外誌 30: 1032-1038 1984.
- 113) 市川二郎, 倉地洋一, 他: 歯槽部に発生した脂肪腫の3例. 日口外誌 31: 29-35 1985.
- 114) 若江秀敏, 橋本 滋, 他: 頰部にみられた脂肪腫の1例—微細構造と分析—. 日口外誌 31: 104-109 1985.
- 115) 金子明寛, 原 英之, 他: 歯肉頰移行部に発生した脂肪腫の1例. 東北歯大誌 12: 22-25 1985.
- 116) 青木紀昭, 遠藤盛孝, 他: 舌両側縁に認められた脂肪腫の1例. 日口外誌 31: 858-862 1985.
- 117) 鈴木信治, 古賀一郎, 他: 口腔軟組織に発生した脂肪腫の2例(抄). 日口外誌 31: 980 1985.
- 118) 新保知子, 菊地 撰, 他: 舌の多発性脂肪腫の1例. 日口外誌 31: 1421-1424 1985.
- 119) 国谷好高, 長富正博, 他: 口蓋部にみられた脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 31: 2036 1985.
- 120) 木下靖朗, 中野稔也, 他: 脂肪腫の3症例. 日口外誌 31: 2163-2168 1985.
- 121) 安井良一, 石川武憲, 他: 興味ある臨床病態を呈した頰部脂肪腫の1症例. 日口外誌 31: 2438-2443 1985.
- 122) 河村広治, 山内隆之, 他: 頰部 lipoma の1例(抄). 口科誌 34: 500 1985.
- 123) 二村 光, 亀山嘉光, 他: 先天性にみられた舌脂肪腫の1例(抄). 口科誌 34: 758 1985.
- 124) 佐々木 久, 斎藤俊樹, 他: 舌下部に生じた脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 31: 2895 1985.
- 125) 高久 暹, 小沢重雄, 他: 下顎角部領域に生じた脂肪腫の2例. 日口外誌 32: 631-637 1986.
- 126) 中山康弘, 西嶋克巳, 他: 舌両側性に発生した浸潤性脂肪腫の1例. 日口外誌 32: 1068-1073 1986.
- 127) 根本隆一, 三科正見, 他: 舌に発生した脂肪腫の1例—光学顕微鏡および電子顕微鏡的観察—. 日口外誌 32: 2390-2393 1986.
- 128) 梶田克明, 藤原利彦, 他: 脂肪腫の3例. 口科誌 35: 702-707 1986.
- 129) 有藤公夫, 篠田幸彦, 他: 頸部に発生した巨大な脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 33: 204 1987.
- 130) 青木弘典, 柳沢繁孝, 他: 舌の両側性にみられた脂肪腫の2例(抄). 日口外誌 33: 249 1987.
- 131) 池羽ゆかり, 高原利幸, 他: 舌に多発した Lipoma 2例(抄). 口科誌 36: 925 1987.
- 132) 横尾宗一, 大鶴 洋, 他: 舌に発生した脂肪腫の2症例(抄). 口科誌 36: 925 1987.
- 133) Bruce, K.W. and Royer, R.Q.: Lipoma of oral cavity. Report of three cases. Oral Surg 7: 930-938 1954.
- 134) Panders, A.K. and Scherpenisse, L.A.: Oral Lipoma. Br J Oral Surg 5: 33-41 1967.
- 135) Allard, R.H.B., Blok, P., et al.: Oral lipomas with osseous and chondrous metaplasia; report of two cases. J Oral Pathol 11: 18-25 1982.
- 136) Stout, A.P.: Liposarcoma—the malignant tumor of lipoblasts. Ann Surg 119: 86-107 1944.
- 137) Osment, L.S.: Cutaneous lipomas and lipomatosis. Surg Gynecol Obstet 127: 129-132 1968.
- 138) Enzinger, F.M. and Sharon, W.W.: Soft tissue tumors. Mosby Co, St Louis, 1983, p 199-241.
- 139) Greer, R.O. and Richardson, J.F.: The nature of lipomas and their significance in the oral cavity. A review and report of cases. Oral Surg 36: 551-557 1973.
- 140) Simpson, H.E.: Lipoma of oral cavity. Report of seven cases. Oral Surg 12: 349-352 1959.
- 141) Choukas, N.C.: Lipoma of buccal wall: report of case. J Oral Surg 25: 371-372 1967.
- 142) Horton, J.E.: Lipomas of the tongue. Report of a fibrolipoma. Oral Surg 25: 914-918 1968.